

分会情報

J R 東海労大阪仕業検査車両所分会

No.190 2017.10.1

発行責任者 松本 幸一

編集責任者 教 宣 部

会社は開催を拒否！！「検修車充電コード切断」に関する緊急申し入れ

関西支社と田邊所長の認識にズレが？！目的は違うところに！！

9月6日、関西支社会議室で JR 東海労関西地本組合側幹事と会社側（関西支社）幹事による事前審理が行なわれました。

しかし、会社はこの「緊急申し入れ」の業務委員会を拒否したのです。その理由は「作業内容の厳正であり、事故の認識はないので業務委員会をやる必要がない」というものでした。しかし、8月9日の田邊所長の訓示は下記の通りでした。

8月6日翌日の仕業検査において、設備を損傷させる事象が発生した。発生状況は床下検修車の充電を行う際、充電コードをレール上部から通したため、出庫車両の車輪とレールの間に充電コードが狭窄し、切断させたものである。

レール上に物を置くことは、鉄道の安全を著しく損なう行為である。また、夏季安全輸送期間中にこのような行為を行ったことは、緊張感が著しく欠如していると言わざるを得ない。（後略）

田邊所長はわざわざ臨時総点呼まで開いて強い口調で訓示しているのに、関西支社は「事故ではない」「作業内容の厳正である。ちゃんと仕事をしてくださいである」と答えているのです。また、「ヒューマンエラー」でも「ヒヤリハット」でもないことを認識しています。

通常、「ヒューマンエラー」や「ヒヤリハット」でないミスについては出勤点呼時に担当助役が少し報告する程度です。しかし、今回の事象だけは臨時総点呼まで開いて所長訓示し、掲示板に訓示内容を掲示しているのです。

この機会に犯人にし、日頃のうっぷんを晴らしたい！？

この事前審理の中で組合側から松本さんを犯人にする証拠について質問しました。しかし、会社は「証拠は話す必要がない」と答え、さらに「まだ、調査中である」ことも明らかにしたのです。それなのに「松本さんがやったというのが最も高い」と断定しているのです。

私達、JR 東海労大仕両分会はこれまで会社に対し「間違っていることは間違っている！」とはっきり声を上げ、現場社員の多くの賛同を得てきました。今回犯人扱いされた松本さんは JR 東海労大仕両分会の分会長です。

今回の事象は、私たち JR 東海労に対する信頼を失墜させるための会社による攻撃であり、田邊所長による松本分会長を確たる証拠もなく犯人に仕立て上げたことは企業権力を背景とした企業内「えん罪事件」であり断じて許さない！